

様 式 F - 7 - 1

## 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成 27 年度）

1. 機関番号 

3	2	6	0	4
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 大妻女子大学

3. 研究種目名 基盤研究(C)（一般） 4. 補助事業期間 平成 26 年度～平成 28 年度

5. 課題番号 

2	6	3	7	0	8	7	0
---	---	---	---	---	---	---	---

6. 研究課題名 第二次世界大戦期、米英両国の世界地理認識の比較研究 地図史研究の方法論を用いて

## 7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
4 0 4 3 8 1 7 2	タカダ カオリ 高田 馨里	比較文化学部	准教授

## 8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名

## 9. 研究実績の概要

申請時の計画通り、1年目の研究調査を踏まえて、2年目においては学会での報告を重視した。2015年5月17日、富山大学で開催された日本西洋史学会の現代史部会で研究成果を報告した。その際、地図史を研究する若手研究者と交流し、秋に行われる学会パネルを組むことになった。その後、夏季にイギリスでの調査に従事し、英国図書館の地図室で、米英両国の地図作成者が協力して作成した、ヨーロッパ戦線で用いられたという精密爆撃地図（斜角遠近法標的地図：Oblique Perspective Target Map）を発見することができた。アメリカ合衆国の第二次世界大戦関連研究などで言及されていることはあったにもかかわらず実物が掲載されておらず、また昨年の米国立公文書館・議会図書館での調査では、所蔵を確認できなかった地図であった。おそらく、第二次世界大戦当時、作成されたイギリスにおいてのみ所蔵されてきたのではないかと考えられる。この発見した地図の作成過程については、英国立公文書館での調査でイギリス航空相の史料の中で、作成者並びに作成プロセスを記した史料を見つけることができた。これらの調査研究成果について、福島大学で開催された政治経済学・経済史学会において、報告を行った。その際、さまざまな分野の研究者の方にご意見をいただき、地図史研究継続への手ごたえを得ることができた。これら、一連の学会報告、夏季史料調査の成果については、大学研究紀要で論考をまとめて発表した。